

■長伏小学校区 第1回きずなづくりトークの意見概要と方向性

テーマ「地域の実状に応じた防災訓練のあり方について」(※●は市長発言)

7月2日 中郷文化プラザ

発言者	現況・課題	対応策・要望
◆第1部「地域座談会」		
長伏町内会	<ul style="list-style-type: none"> ○12月第1日曜日に訓練実施。毎年600名ほどが参加 ○訓練内容はマンネリ化しているが、一つに集まることによる「意識の向上」だけでもプラス。一年に一回は実践した方がいいと考えている。 ○消火訓練だけではなく、実際に避難所に集まったときどういう状態になるか、身をもって体験していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練内容はやはり実のあるものにしていかなくてはならない ○町民同士で普段から、ふれあいやきずなが出来ていれば避難所生活もスムーズに行くのではないかと思っている。 ○避難所生活体験なども訓練に取り入れたい。
御園町内会	<ul style="list-style-type: none"> ○今年初めて町内会長になった。 	<ul style="list-style-type: none"> 9/1の訓練では、今日の会合の話を参考に、実行していきたい。
松本町内会	<ul style="list-style-type: none"> ○長伏はいつもどんな訓練を行っているか聞いた、大体うちと同じ事をやっている。 	
長伏町内会	<ul style="list-style-type: none"> ○自然災害に対する町民の意識付けをどの様にしたらいいのか一番の問題。各家庭で水や食糧品の備蓄をどの程度ストックしておくかなど、訓練はあくまでそのような意識付けをさせる一つの手段という考え。マンネリ化しているが、参加者はそう捉えずに、一年に一度のイベント行事として、家にある緊急時の備蓄の見直しの日だなどと思ってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○訓練には二つの要素がある。「防災訓練という行事をどう企画運営(プログラム等)するか」など中の問題と、もう一つは「日頃の防災意識を高めるための工夫、訓練を通じて意識を高める、意識付けをどう行うか」という2点が課題。(ファシリテーター)
◇防災訓練のプログラム・意識向上について		
松本町内会	<ul style="list-style-type: none"> ○車のキーに笛をつけ普段身に付けている。身障者のボランティアをしているが、そこでは黄色いハンカチ訓練も実施。 ○訓練には20回以上参加しているが、2台のポンプはいざというとき全然使えないと思った。ロープワークなどもあまり真剣にやっていない様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個々に意識を持たせるには、小さい事からやっていくのが良いのかと思う。ポンプなどいざというときには協力は難しい。分団もあるし、70歳を過ぎる人には大変だと思う。
長伏町内会	<ul style="list-style-type: none"> ○災害は季節、昼夜、風雨、晴など、どんな時にくるかわからない。 ○体育館での避難所訓練は、市の応援を得て組長さんに集まってもらい、パーテー 	<ul style="list-style-type: none"> ○マンネリ化しているのはその通りだが、訓練はとにかくやった方がいい。 ○集合体はまず家庭⇒組⇒町内と

	<p>ション作りなど実際、経験しておく。</p> <p>○実際寝たきりの方の救出が可能か問題。</p> <p>○トイレの問題も非常に大きい。穴を掘って板を通すなど出来るのかも知れないが、街中はそうはいかない。場所によって事情が違う。</p>	<p>なる。家庭での訓練、組での訓練が出来れば、比較的町内でもまとめ易い。</p> <p>○市のほうで出来ること出来ないことをはっきり市民に知らせて欲しい。</p>
松本幼稚園	<p>○年間計画をたて毎月一回訓練を実施。地震とは何か、逃げるとは何か、子どもたちに理解させ、職員は園児の命を守ること、絶対に安全に保護者に渡すことを基本にしている。</p> <p>○園には食糧はないが水を備えた。分け合えるようリュックに紙コップと、トイレ問題もあるので紙おむつを用意した。</p> <p>○保護者に対しては引渡しの時、誰にどの子を渡すか避難訓練のカードを作り、その方が来るまでは絶対に預かっている。</p> <p>○避難場所である中郷西中と連携をとり、一部屋借り必ず行っている、渡すまでお預かりするので、あわてないで来てくださいということを保護者に伝えている。</p>	<p>○5歳児が歩いて10分ぐらいの距離だが、3歳児が泣きながらの移動になると懸念。ご近所の方には常に声をかけ、何かの時にはお願いしますと伝え、中学校の方にも、もしかしたら手をお借りしたいとお願いしている。</p>
松本幼稚園 P T A	<p>○小学校と幼稚園にも子どもがいる場合、どちらを先に迎えにいったらいいのか。簡単な疑問だがあまり記されてこなかった。小学校の方が川沿いだが、津波が来たとき大丈夫か心配。</p>	<p>○マナー化といっても初めて参加する人もいるので、続けた方がいい。小中学生など若い子の参加がとても多かったので、後々つながっていくと思う。</p>
長伏小学校	<p>○本校の防災訓練の特色は4点ある。</p> <p>○1点目は津波を想定した訓練。狩野川を溯ってくるかもしれないので、3階に避難する。地盤が軟弱であることから液状化も考えられる。運動場が果たして避難に適しているか疑問。</p> <p>○2点目は色んな時間帯を想定した訓練。登下校時が一番問題だが、交通事故など色々な問題があり出来ないなので、休み時間、教師の指導から離れたという設定の下、子どもたちが遊んでいるときの避難訓練を試みた。子どもたちには自分の命は自分で守る意識付けを行う。</p>	<p>○学校独自で津波やシチュエーションに対する訓練を考えている。災害対応にはイメージーションが必要で、どういうことが起こるか考え、それへの対策を編み出していく。それが防災訓練のプログラムになっていく。(ファシリテーター)</p>

	<p>○3点目は引渡し訓練。町内放送を使って保護者に呼びかけている。また引渡し訓練は幼小中の連携が必要かと思う。実際に親はどの順番で引取るのか悩む。構想の段階だが検討中。</p> <p>○4点目は備蓄。避難所なので、町民のための備蓄はあるが、子どものものがない。保護者に引き渡せなかった場合に備え、飲料水、食料の備蓄が必要ではないか。教育委員会の方で検討中</p>	
中郷西中学校	<p>○年に3、4回の訓練を実施。火災、地震、昨年度から津波の訓練を行っている。</p> <p>○本年度は集団下校を取り入れる。先日町内会長と話し合い、地区毎の集合場所を確認した。これは防犯訓練にもつながる。</p>	<p>○いざ事が起きたときに一番動くのは中学生だと思う。中学生がどの様に活動するのがベストなのか。年間のカリキュラムの中では、あまり時間をかけられないが、必要な事だと思う。</p>
長伏町内会	<p>○学校に子どもの参加をお願いしている。公立の高校生は証明をもらいに、それだけを目的に来る子もいる。</p> <p>○日頃から挨拶しながら、中学生と触れ合っていないと、なかなか一緒に活動は出来ない。先生に言われ参加する子が大半だと思うが、顔を覚えてくれば、いざ本番で接触した時に動いてくれると思う。</p> <p>○引き取り訓練では、保護者が帰宅できない場合もある。ご近所に非常時のお願いをしておく、普段から話し合い、ふれあうなどのきずなづくりが絶対大事。</p>	<p>○訓練をきっかけにふれあいが深まるかもしれないし、日常で触れ合う何かがあって、訓練に参加するようになるかもしれない。お互いにきずなが深まり、助け合いが出来れば、きずなが生まれる地域になっていく。(ファシリテーター)</p>
長伏町内会	<p>○雨天だと防災訓練を中止したことがあるが、屋内でマジギリの設置や炊出しなど、中止にせず違った場面の訓練も重要。</p> <p>○長伏には3箇所の防災倉庫があり、それぞれ色々備蓄しているが、長伏町内全員の確保は出来ない。あまりにも町内、市を信用して避難されるとそこまで手が回らない。水、懐中電灯など、各家庭で最低限の備蓄が必要</p>	<p>○三角巾・消火器などマンネリ化でも、やはり大事なこと。基本は基本でやり、さらに必要なものがあればとり入れていく。</p> <p>○長伏小学校は、御園と長伏の避難所。3年に1度でもいいので、長伏町内、御園町内、せめてその二つは合同で訓練をやったらどうかと思った。</p>
◆第2部「市長との意見交換会」		
市長	●災害時、市が出来ないことを述べたい。	

	<ul style="list-style-type: none"> ●まず一つは救出救助。建物の下敷きになった人を一斉に救出することは、市の消防の能力では無理。各自主防災会で救出するしかない。救急車は市内に4台のみ。人口3万人に1台と決められている。また阪神淡路大震災時には8m以下の道路は全て通れなくなった。救急車は来ないと思って欲しい。救出後は、皆で病院まで担ぐか運ぶかしないとイケない。 ●次は消火。まず自分の家は自分で消火。町内の火は自分たちで消す体制が大事。 ●3つ目は水と食糧。基本的には3日分を自分で用意してもらいたい。浄水器が長伏小避難所にあるが、訓練で使っているか。 	<p>○以前一回やったがフィルター代が非常に高いということでそれ以後やっていない。(長伏町内会)</p>
市長	<ul style="list-style-type: none"> ●災害時助けてもらいたいという災害弱者(障害者、介護度2以上の方、独居高齢者)が、市内で約2800人。この2800人の名簿を各自治会長に市の福祉総務課まで取りに来てもらっている。その際笛を渡している。 ●三島中で一番いい訓練を行っているのは長伏。消火器、ADE、三角巾、炊き出しなど基礎基本のことを必ずやっていくことが大事。 ●一次避難所で安否確認し、自分の家が無事なら自分の家で暮らすこと。避難所に全員は入らない。家が崩壊、焼失した人が避難所で暮らすと理解して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災訓練時、実際に笛を吹いて、この音がしたら救出するということを徹底して欲しい。 ●基本的な事と、創意工夫をした訓練の両方を実施するように。実際に壊す住宅を利用した救出体験や、夜間泊まっでの避難所体験など。最近、市で多く要望があり実施しているのはハグ(避難所運営訓練)。危機管理課に相談したり、県の地震防災センターで訓練があるので、参考にしてもいいかと思う。
松本町内会	<p>○3日は地域の中で頑張らなくてはいけないことを念頭におき、去年から町内会本部役員は対策本部を作って、どうしていくか具体的に取り組み始めた。市の危機管理課の方に出張講座で、特に松本という地域に即した震災時の避難状況の話聞いた。</p>	<p>○まず自分の身を守ることが第一。次に周りを見て余力があったら助ける。周りと一緒に市での公共的な援助を待つ。というイメージを自分の中で描いてみて、その場その場でどういう対応をしたらいいか考える。</p>
松本町内会	<p>○家の中の逃走経路の確保、靴があるところまで逃げられるようにという話を、時々家族で話をする。</p>	<p>○落ちてくる物で逃げ場がなくなるので、高いところに物を載せないこと。</p>

<p>体育振興会</p>	<p>○家庭の備蓄（3日）と、怪我の救急処置、また火災に関しては消防をやっていたのでなんとかお手伝いできる。ただ、救出救助に関して、潰れた家の人を救うのは相当危険。ある程度知識や技術がないと難しくて出来ないのではないかな。</p> <p>○長伏の場合は、防災訓練でも丸太を切るが、やたら切っても倒れてしまうので難しい。教えて欲しい人が、技術者に教えてもらえれば何とか出来るのではないかな。</p>	<p>●よその自主防災会では、大工やとびの人などの人材リストを作って、災害時の救助をお願いしているところもある。それから機材だが、阪神淡路の時には車のジャッキが大変有効だったので、そういった訓練を行っているところもある。</p>
<p>地域づくりコーディネーター</p>	<p>○防災訓練は、市と町内の連携はどうなっているのか聞きたい。毎年市の要請でやっているのか。</p> <p>○見直し等これからやっていく上で経験者の話を聞けたらと思っている。具体的な方策が出てきて、若い方も加わって防災訓練が盛んになるとともに、それをきっかけに地域づくりが生まれていったらいいと思う。</p>	<p>●防災訓練は地域の皆さんが「自分たちの地域は自分たちで守る」ということで、自分たちで防災訓練を基本的にはやっている。そのやり方や機材などを、市はサポートする形でやっている。</p>
<p>市長</p>	<p>●今日の資料に、三島市の第4次避難想定がある。以前の第3次よりは被害が低くなっている。震度にしても全壊または半壊家屋数は低くなっているが、あくまで想定なので最悪のことを考えておかななくてはならない。</p> <p>●この地域は液状化が心配される。南海トラフの巨大地震の時、三島市は大きな被害が及ぶ液状化は2.7平方km、中程度は3.8平方kmとなっている。</p> <p>●安政の大地震の時には津波が狩野川を遡ってきた話もあるので想定は必要。今回はその想定はなかった。</p>	<p>●災害時、黄色いハンカチは安全のしるしで、これがかかっている家には安否確認にいかなくていい。多くの町内が取り組んでいる。防災訓練に参加出来ない人も、参加する意思がある人は訓練時、家の表に縛ってもらうと、いざという時、黄色いハンカチが使える。</p>
<p>松本町内会</p>	<p>○災害後4日か5日目以降、市が援助できる部分はどのようなものがあるか。</p>	<p>●食糧、水を供給できる。だんだん救援物資が届くので、避難所で必要な資材は届けられる。自分の命は自分で守ることをまず徹底して、市はあまり当てにしないでいただきたい。</p>
<p>長伏町内会</p>	<p>○要援護者で家族がいる方はいいが、寝た</p>	<p>●それぞれ町内で支援する体制は</p>

	<p>きりの方に笛を渡しても吹けない。家族がいれば吹ける。</p> <p>○普段元気でボランティア活動に参加されているような方も支援対象者に登録されていた。町内会として、また別にその辺も把握してないといけないのかなと思っているが、本当にどれだけの要援護者がいるのか網羅するのは難しい。</p> <p>○民生委員や市から援助いただきながら、せめて町内会、組長が力を発揮できる状況にもっていきたい。</p>	<p>作られているか。例えば芙蓉台では防災隊の様なものを作り、1ヶ月に1回くらい災害弱者を運び出す訓練を行っている。</p> <p>●先月 6/17 に災害対策基本法が改正され、個人情報保護についてきちっと決められた。災害弱者を市が把握しなければならず、その名簿は町内会長、自主防災会長に渡せることになった。万一大災害があった場合には、個人情報保護のタグをはずして、名簿を利用して救助活動が出来るように法律が変わった。</p> <p>●これからまた名簿を作る。どのように自主防災会で救出するかが課題かと思っている。</p>
<p>松本幼稚園 P T A</p>	<p>○備蓄のことだが、スーパーとかハックドラッグなど、義援金を生かしてスーパーの買い上げなどは出来ないのか。</p>	<p>●スーパーと市は協定を結んでいて、生活物資はそこで販売してもらう。備蓄は実際には7日もしなくて大丈夫ではないかと思っている。道路が再開されれば全国あちこちから支援物資が届く。イオンやコンビニなども早めに開店すると思われる。食糧や生活必需品は手に入るようになると思うが、ただ水だけは用意しておいて欲しい。</p>
<p>市長</p>	<p>●9月1日は防災の日。12月第1日曜は地域防災の日。9月1日の訓練は予知が出来る事を前提にした訓練、警戒宣言が出て、一次避難所に集合し、安否確認後、地震に備える、その後避難が必要な人は避難所生活をするという訓練。12月の地域防災の日は突発的地震の訓練になっている。</p>	<p>●全市的に見ても12月はじめに訓練をやっているところは少なく、長伏くらい。3年に1回くらい一緒にやろうという話が出たが、12月だと中学生の参加も見込まれる。避難所でどのように住み分けしていくかなど、一体となってやっていくことがよいと思う。</p>